

科目名	臨床看護概論Ⅳ (医療安全)				DP1 DP2 DP4 DP5	看護高等課程
学年	1年	分野	専門 基礎看護 臨床看護概論	時間数	15時間	担当 教員 岩村 優子
科目 概要	医療現場は、医療の高度化、高齢化、重症化、在院日数の短縮などに伴い、危険いっぱいの職場であり安全確保は容易ではない。患者だけではなく、自分自身の看護職としての身分を守るためにも、リスク感性を高め、重大な危険や兆候を見過ごすことなく、安全な看護を提供することは重大な課題である。医療における危険要因を知り、安全な看護を提供するためのリスク感性を高める医療安全教育を展開する。					
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 危険と判断できるための知識が、実際に使える形で身につけていることが、リスク感性向上の必須条件であることがわかる。</li> <li>2. 「異常に気がつく」「発見する」「変とを感じる」といったリスク感性を育てることの重要性に気づく。</li> <li>3. 医療現場は安全ではない。危険いっぱいの職場であることを自覚する。</li> <li>4. 医療安全に必要なコミュニケーションを学ぶ。(不十分な情報伝達事故)</li> </ol>					
回数	単元項目	授業内容			形態	担当教員
1~3	医療安全と看護	なぜ医療安全を学ぶのか 医療安全の動向 医療安全に関する基礎知識 事故発生のメカニズムとその対策 医療安全における感染対策			講義 演習	岩村
4~7	事故防止のための技術	病院における事故・災害とその対策 転倒・転落防止、誤薬防止、患者誤認防止、抑制法				
	リスク感性育成 (KYT)	感性を育て、安全な医療に「気づく、感じる」ことができる医療者の育成の為に KYT (危険予知訓練) を体験しリスク感性を高める				
8	試験	(1時間)			試験	
評価 基準	100点満点とし、6割以上を合格とする。また、授業時間数の3分の2以上の出席が必要となる。					
評価 方法	出席状況と講義への参加態度、課題・筆記試験などで総合的に評価する。					
教科書	看護学入門 5 基礎看護Ⅰ 看護概論 看護学入門 6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 必要時、資料等は配布する。					
履修上の 注意点						